

授業科目	音声学				
担当者	松井 理直				
実務経験者の概要					
学科名	言語聴覚専攻科	学 年	2年	総単位数	2単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

音声の構音と音響特性について正確な知識を習得する

■ 到達目標

発音記号・音節とモーラ・アクセントとイントネーション・音声の音響特性について習熟する

■ 授業計画

- 第1回 音声器官の復習
- 第2回 IPA 発音記号と構音障害の発音記号について
- 第3回 舌の特性
- 第4回 調音方法の分類
- 第5回 子音の詳細 (1)
- 第6回 子音の詳細 (2)
- 第7回 母音について
- 第8回 二重調音と二次的調音
- 第9回 各種音声変異について
- 第10回 日本語の分節音 (1)
- 第11回 日本語の分節音 (2)
- 第12回 日本語の分節音 (3)
- 第13回 母音無声化について
- 第14回 日本語のモーラと音節
- 第15回 重音節の意味
- 第16回 アクセントとイントネーション
- 第17回 東京方言名詞アクセントの特徴
- 第18回 動詞・形容詞のアクセント
- 第19回 イントネーションの詳細
- 第20回 リズム・ポーズ・話速
- 第21回 プロミネンスとインテンシティ
- 第22回 音韻論：音素の考え方
- 第23回 相補分布と最小対立
- 第24回 弁別素性と音韻理論の基本
- 第25回 音声と形態現象
- 第26回 動詞を巡る形態現象
- 第27回 ヴォイス・アスペクト・テンス・モダリティ
- 第28回 母音の音響特性に関する復習
- 第29回 子音の音響特性に関する復習
- 第30回 アクセントと基本周波数

■ 評価方法

筆記試験 80%、小テスト 20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習時間1時間程度。復習時間は個人の理解度によるが、1時間程度。初回の授業までに、1年生で学んだ「言語学」「構音障害」の内容をよく復習しておいてください。

■ 教科書

書名：1年次に用いた「日本語音声学」の教科書とプリントを使用します。

■ 参考図書

■ 留意事項

授業中に分からないことがあれば、必ずその場で質問をすること。

質問は大歓迎なので、授業中に可能な限り内容を理解するようにしてください。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規定に定める第16条を適用し、当期科目の全ての試験を無効にする。

■ 講義受講にあたって